

南園會報



會報修用

第五號



山口縣阿武郡立  
實科高等女學校

# 南園會報

## 第五號

### ● 教 園

○ 第五回卒業式に於ける訓辭……(1)……米原 會長

### ● 學 園

○ 大正婦人の責務……(3)……理事……中野 貞介  
○ 無形の力……(5)……理事……本永 旭

### ● 本校記事

會 報 部

- 一、薙刀仕合型寒稽古……………(8)
- 二、養蠶と製絲……………(8)
- 三、郡内小學校長の來觀……………(9)
- 四、皇后陛下御眞影拜戴式……………(9)
- 五、第五回保証人會開催……………(10)
- 六、第五回卒業證書授與式  
第四回修了証書授與式……………(10)
- 七、入學試験執行……………(12)
- 八、本學年の開始……………(12)
- 九、學科受持及級監各學級人數……………(12)

一〇、竹内先生の退任……………(13)

一一、本校基金の寄贈……………(14)

一二、毛利公爵の姫君御二方の來校……………(14)

一三、校運の隆昌……………(14)

### ● 本會記事

會 報 部

- 一、松浦名譽會員の來校……………(15)
- 二、南園會臨時總會並に同新年茶話會……………(15)
- 三、南園會送別茶話會……………(16)
- 四、南園會維持費寄贈……………(17)
- 校外會員消息……………(17,18)
- 特志者芳名……………(19)
- 會費納入……………(19,20)
- 會員名簿……………(19,20)

# 會 告

(一)

前号は新聞紙大のものを發刊致候處保存上の都合及會員の希望もあり本号よりは又もとの通り雜誌體のものに改め一ヶ年數回發刊することに協議ましまし候に付左様御了承相成度候

(二)

本年十二月頃には創立五周年記念号を發刊する豫定にて是には出來得べくんば寫眞版も口繪として挿入致したる者に候特に記事は種々の方面のものを載せたる希望に候に付舊職員方並に校外會員の方は御近情あり御感想なり御寄せ下され度願上候尙附録會員名簿は相當に苦心を重ねて調製せしものに候へ共多數の故多少の間違もこれあらむを恐れ居り候若し斯様のこ

とぞもこれあり候節は頗る遺憾に付御本人は勿論他の人々にても早速御一報御願度候御住所の不明身分上の御異同の爲め會報の遲着又は到着せざるやうのことこれあり候は双方の不便かと存じ候

(三)

校外會員にして會費の納入終らざる方は會計上の都合もこれあり此際早速御送附相煩はし候



山口縣阿武郡立 實科高等女學校 南園會報 第五號

## 教 園

### 第五回卒業式に於ける訓辭

米 原 會 長

予は本日卒業及修了の諸子が、特は本校に來りて、螢雪を重ねし所以の旨趣につき、深くを顧みる所あらんを望むと共に、更は又將來に對する心得につき、陳述すべき義務あることを信ず。

惟ふに諸子の父母長上と諸子とは、高等女學校の課程を修了せざれば、一般婦人として、又家庭の主婦としての資格に、缺くる處あるべきを慮り、家業を重んじ、勤勞を樂むの美風を涵養し、世の弊風に浸染せざらんとに努力すべく、特に實科を標榜せる、實科高等女學校たる本校の教育に與らしめられたり。是を以て予は實に、着實にして、且つ周到なる、此の確かなる精神が、長へに諸子の腦裡に深く印象せられんことを、切望せざるを得ざるなり。

嗚呼今諸子は卒業又は修了といへる榮譽を擔ひ、邦家及父母の期待を負うて、波風荒きわだ中に譬へつべき世に、その身を立つべきの時とはなりぬ。諸子の歡喜父母長上の満足如何でかは、筆紙に盡さん。されば諸子にして、今日あるに至りし君國兩親恩師長上の恩惠を考へなば、その感想の深かるべきは、蓋し言ふを俟たざ

るべし。而して諸子は今後自己の家に在りて、家事を助くるもあらん、他家に嫁きて主婦たるもあらん、又教育に従事して、人の師表たるもあらん、將た志を抱いて上級の學校に學び、學藝に勤むもあらん。その間順境に立つもあるべく、又逆境に立つもあるべく、その向ふ處と、その境遇とは、必しも一ならざるべしと雖も、要は、勅語の御趣旨を拳々服膺し、貞淑温良、勤勉を以て終始一貫し、能く義理を辨へ、常識を具へ、常に女らしき女として、一生を完うせざるべからず。假りにも世に指彈させらるゝ所謂、新らしき女や醒めたる女などいふが如き、いど浮薄なる「か轉婆」即ち變り者、又「拗ね者」の類とは劃然として、その趣を異にし、日夜躬行實踐に留意し、「敏於事而慎於言」の態度を以て、一家和平の中心となり、虚榮を厭ひて着實を好み、暗黒を退けて光明に就き、人生を己が修業所と觀じ、束の間も品性鍛練の大事を忘れず、徹頭徹尾孝順を以て父母舅姑に事へ、誠意を以てその夫に對する内助を完うし、更に萬一の場合には、細腕ながらも一家の持續經營の任に當るの覺悟と、實力とを以てしてこそ、眞の婦人としての實地の卒業とも名づくべく、又精神的に本校の卒業者たる光榮を擔ひ得べきなれ。

我國家の現狀は、斯かる淑かにして、働さる婦人を要求して已まざるが如し。今や予は萬感交々胸に滿ちて、多くを語るを得ずと雖も、衷情は實に斯の如し。更に一言せざるべからざるものあり。他なし。そは予輩は國家期待の旨趣を体し、孜々として諸子の鞭撻に努めたりとはいへ、由來教育の事業は最も至難なるに加へ、予輩の不肖微力なる、眞にその家庭及諸子の希望を満足せしむること能はざらしめたること、甚だ尠少ならざりしを覺ゆ。しかはわれども國家の爲め家庭の爲め、又諸子の爲めに、眞に賢女たらしめ良婦人たらしめんとの、一片耿々の誠意を以て指導し激勵せしことは、諸子の家庭及諸子の諒とせられし處なるべきを信じて疑はず。此の機會を以て、予は特に本校を代表し、諸子の健康と將來の祝福とを祈る。

## 學 園

### 大正婦人の責務 (大正六年)

理事 中野貞介

日清日露の兩戰役を経、大正に入りて年を閱するこゝと正に六、而して強猛なる獨逸軍を青島に殲滅して、東亞の天地にまた戰鬪に勝ふる獨軍の隻影だも留めしめず、國光維揚り、國光八紘に輝く。嗚呼是れ全く我、皇祖皇宗の御威靈と我、皇の御稜威の致す所。洵に古往今來未だ曾て聞かざる所にして、吾人の衷心歡喜扑舞皇天皇上に感謝措く能はざる所、會員諸子亦吾人と感と同じうせらるゝこと、信す。而して榮譽の加はる所責務亦加はる。生を大正に享けたる諸子何を以てか、聖代に答へまつらむとはする。吾人茲に大正婦人の責務と題し、聊生平の所信の綱要を披瀝して會員諸子の一讀を請はむとす、豈他あらむや。

抑吾人の大正婦人の責務として、其最も重大なるものを擧ぐれば、第一尊皇愛國の大義を眞に了得し、益

其發揚に努むるにあり。由來尊皇愛國の觀念は男子のみ必要にして、婦人には其必要無きもの、如く思惟せられたる觀無きに非らざりしなり。是れ甚だ理由なきこと、謂ふべし。今次の時局尙已ますして交戰状態に在り。戦局の前途俄に測り難しと雖も、將來益國際間の競争激甚を加ふべきは瞭々火を賭るよりも明なり。而して良人に光明を與へ、慰安を與ふる妻女、子女養育に専らたづさはる母にして、尊皇愛國の精神の厚薄、多寡、其信念の強弱大小は、如何に重大なる結果をあらはすべきか。吾人は諸子の小楠公の母たり、楠公の妻の如き覺悟の其平素より存養せらるゝこと、特に今日の責務として養はれむことを翹望してやまざるなり。

つぎに當代の婦人に對し、吾人の衷心希望するは、其貞淑温和にして謙讓の徳を備ふること是れなり。吾人世の婦人の次第に活潑となり、快活となるは大に贊同する所なるが、其流れて輕佻となり、浮薄となり、野卑となり、強情となり、驕慢となり、高襟となり、遂には不貞の女となる。是れ吾人の極めて排斥する所に於て、かくの如きは學生としては、本分に遠ざかりてよからぬ女となり、娘としては父母兄弟の命を奉せざる女となりて家庭に波瀾を起し、嫁としては家族制

度を根本的に破壊する我儘物となる。春風和暢たるべき家庭の天地をして、秋風蕭殺の空氣漂ふ家庭たらしむるは、即ち吾人の傷心に勝へざる所ならずや。大正の婦人として吾人の特に囑望する所以は、其意志の極めて鞏固にして遠大の計畫思慮あり、常に艱難は自己を玉成するものと観じて、新運命の開拓者となり、將來の光明を望みて、奮闘努力する人となることなり。運命は常に人に福せず、如何なる幸運の人と雖も、一生の中必ずしも幸福のみは來らず。況や其他の人に於てをや、喜を得て笑ひ、憂によつて泣く。其間少しも自己を反省する修養もなく、遠大の計畫思慮もなし。新運命を開かむとの念慮もなければ、禍を轉じて福となさむとの用意もなし。是れ感情一片の婦人に見る状態として、かゝる婦人の常として、容易に流言を信じて裏反覆常なく、泰西の詩人をして「冬時の風と婦人の心は屢々變ず」との痛歎を起さしむるに至る。生を大正に享くる諸子、耿々たる理智の光によりて世の暗黒を照らし、鞏固なる意志をもて是を遂行し、清き情味をもて之を醇化せよ。

勤と儉とは家を富ます基礎にして、亦國を興す根本たり。然るに今や學世滔々華奢に流れ、虚榮の風漸く都鄙に荒まむとす。而して多くの罪惡は虚榮に胚胎すと

さく。吾人は會員諸子の通信を見て、常に勤勞を樂しみ而も虚榮の惡風に侵されざるを多とせずんばならざるなり。今日の一時間は明日の二時間にまさり、今日の一錢は明日の二錢にまざると觀せよ。而して之を有効に活用せよ。

終に吾人の囑望して己まざるは、報恩謝徳の觀念と慈悲、同情、博愛の精神なり。方今漸く生存競争熾烈にして、如上の諸徳の次第に薄らぎ行き、恩恵に感ずる觀念乏しく、而して一面冷淡刻薄至らざるなき行爲を取てするものなきにあらざる。嗚呼世は漸く惡魔横行して、暗黒の奈落に沈まむとするかと思ふ時、悚然として落日に對する感無くんばあらざるなり。あはれ世は如何にならばなれ、社會家庭の花と歌はれ、現世の天使と呼ばるゝ婦人、希くは健在にして沙漠のオーニスたれ、靈界に於ける善美の權化たれ。以上大正婦人の責務に對する所論の綱要未だ盡くさざるものあり。然れども吾人の希望する所は所説のいたづらに多からむよりは、寧其重んずる所は其體得にあり、其實現にあり。今や我國は東西兩洋の思潮の交流点となり、清澄瀾濁の思潮共に流れ、目睹耳聞する所岐路に迷ふべきものなきにあらざる。希くは生を聖代に享け、南園の學舎に螢雪を同じうせる諸子、毅然として世の惡風に感染

せられず、常に耿々たる心靈の下に常に純潔無垢、とこしなへに清かれ。至囑々々

無形の力

理事 本 永 旭

ルイサ、ハイバング氏は植物改良の神として、其名を世界に知られてゐる。氏の爲した數多の事業中野生のカクタスを改良して食用シヤボテンといふ、新種の植物を造り出したことは、何人も知つて居る所であるが、これがためにアメリカの牧畜業には莫大な利益を與へて居る。

元來野生のカクタスはメキシコ地方至る所に繁殖してゐる植物であるが、無数の刺を有してゐる爲めに甚しく人に嫌はれ厄介視されてゐた。ハイバング氏はこれを自分の試験所に持ち歸つて、久しい間に多額の費用と非常なる忍耐とを以て苦心慘愴の末、遂に無用の長物視されてゐる植物から最も有益な滋養品を造り出した。

ハイバング氏の功績は實に偉大であるが、この一大成巧を遂ぐるに至つた最初の動機と改良試験中に於ける

氏の心の高潔で誠實であることは、更に其の人格の偉大なのに感せしめてゐる。

ハイバング氏がメキシコ旅行中人に嫌はるゝ、このカクタスを視て非常に隣惑の情を起し、同情の念に堪へなかつた、如何にかして其の刺を除いてやりたいとの一念から強い決心を以て改良試験に着手した。其後多年の間種々難多な試験をしたが、氏の心中には利益と名譽とを求むる心が寸毫もなく、唯單に無益有害なこの植物の上に注いだ厚い同情と慈愛の心があつたのみである。

ハイバング氏の成巧の根源は深遠な知識や巧妙な技術の如き有形的な力よりも、其のものに對しての眞の同情眞の愛情の如き無形的の力が其の基礎であり生命であつた、即ち事業に對して最高純潔なる動機と始終不變の愛情其のものが氏をして遂にこの成巧をせしめた所以である。

ハイバング氏が多年の経験から自分の意見を述べた書物に「人間の栽培」といふのがある、其の書物の第三章に「人間を訓育するは全く植物を栽培するに等しい、故に先づ第一に各目に固有な特性のあるものを了解せねばならぬ。如何なる幼年者と雖も互に等しい者はあり、故に同一の経路によつて發展するものでない事を

承知せねばならぬ……。且つ植物の改良事業に於けると等しく、人間を指導するに當つては、純正なる愛情と絶對に混和物のなき誠實とが無ければならぬ。真心から植物を愛せざる人即ち他に何等の利益を圖るといふが如き目的ある人は、決して植物の培養事業に成功するものでない。人間の訓育もこれに等しく眞の愛情がなければ訓育は全然不可能である、何となれば如何なる幼年者にしても、植物と等しく到底欺き得るものでなく、之れを指導するものゝ動機に利益名譽偽善虚飾等の如き混和物が毫釐でも介入するとせば彼等の爲めに之れを看破せられざることは決してないからである」と、馬好きな人即ち馬に對して温情を以つてゐる人の心は馬は直覺的に之れを知覺して其の人には從順である。夫は人の言葉や動作以外に無形的な様子で、自分の敵味方を識別する力をもつてゐる。まして万物の靈長といはるゝ人間が相手の行動の眞偽を識別し得るは當然なことで、ハーバング氏の言の如く其の方法手段の巧拙よりも其の方法手段を施さんとする、最初の動機が純潔で其の行爲が誠實でなければ目的を達し得るものでないといふことは眞理であると思ふ。譬へば同情するといつても諸多の種類がある、即自己が之れに同情せねばならぬ地位にあるがために同情するよ

どがあり、今日同情して置けば他日何かの利益があると思ふて同情することがあり、また同情心に富んだ人であるとの世評を博せんがために同情する事がある。然し以上は眞の同情にあらずして、寧ろ自己を欺き他を欺く虚偽であり、善を衒ふ偽善である。眞の同情は其のものゝ不幸を憫諒するといふ心と、其のものゝ最大幸福を冀ふといふ心の外には一点の異物の介入を許さざる心的状態これ即ち純潔にして麗はしき眞の同情である。

身のために君を思ふはふた心

君の爲めとて身をば思はで

此歌は金剛山に於ける楠公肖像の上に掲げてあるものである。

私は最近恩師乃木院長といふ書物を讀んだ、これは久しく院長に親炙して居られた服部教授の著であるが、偉人の面目宛然紙上に躍動し無限の教訓を受けた感がある。

訥辯で口數も少ない飾りもない乃木學習院長の言葉は學生の心に對しては最も雄辯であつて恰も銳利な短刀の如くに彼等の心を豎に横に貫いて感動を與へる、其の理由は其口より發する言葉の以外に或る無形の何物か其の心の奥底に存して居るのを學生等は直覺的に中に「偉大なる人格に附隨してゐる言葉なき無形な偉大なる力は絶えず他を教化してゐる」とこれ實に無形な力の有力なことをいつたのではあるまいか、無形の力は無形な所に價値があり力がある。

以上述べた所は、生物のみに關してゐる様であるが、世の中の仕事は何事によらず仕事其のものを眞に愛して眞の誠心からすると否とは其の仕事の結果に於て多大の差を生ずるものである。茲に筆を一本造るとして眞又立派なものを造りたいとの者へから、毛の性質竹の特性を考へて其の固有性に適合する様に苦心して造るのと、他に利益や名譽を得たいといふ考へを持つて造るのとは其の出來上りに差を生ずることは勿論なことである。

志津岐公園の櫻花は實に見事に咲いて多くの人を嘆稱せしめ遠くから觀覽の客を引いたが、これは春一時の榮ひである、其の根は夏も冬も人の目に觸れない地中に隠れて働いてゐる無形な太陽の温熱は一年中この木の枝や葉を温めて居るこの隠れたる無形の力があつて毎年この美しい花を咲かすのではあるまいか。

年毎に春を知りてや梅櫻

木を割りて見よ花のありかを

意識するからである。院長の話には言葉で言はれた事よりも未だ言ひ表はされざることが大部分で學生は常にこの隠れたる無形の部分によつて感化されて居た、而してこの無形の力所謂感化力は日夜品格の高い院長から四方八方に發散して居た。

兩親が其の子の上に有する感化力も一種の威嚴も其の親の實際に有する學才地位名譽等ではない唯々其の子に對する愛情の一点に因るものであると思ふ。

一の運動があれば又必ず之れに對して一の反動が起るといふことは物理学上の原則である。兩親が其の子に對する眞の愛情も之れに等しく、愛情が眞實であるが故に其の反動として起る信頼も亦純潔である、茲に於て初めて感化と一種の威嚴とが生ずることになる。

乃木院長が學生に敬愛せられ誠心から悦眼されて居た理由は其の陸軍大將なるが爲めでなく伯爵なるがためでもない、絶對に偽善の分子を含まぬ行爲即ち最高なる動機より發する行爲と純潔なる愛情とのあるがためである。

ハーバング氏が常に思ふまゝに植物を改良する原因も亦茲に在る、最高純潔なる動機と混和物のなき誠實とは無心の植物でも感化してゐるではないか。

ハンティングトン氏は「自覺せざる感化」といふ書物の

## 本校記事 會報部

(大正五年十二月より  
大正六年四月に至る)

### 一、薙刀仕合型寒稽古

外に優しき徳輝きて而も内守る所堅く、貞淑従順にして意志の鞏固なるは、婦人として最も貴ぶべきことなるべし。

この意味の下に、我校にては我等の爲に薙刀体操と薙刀仕合型とを特に課せらるゝに至りしは、誠に喜びて餘ある所なり。且つ之が爲に心身の鍛練せられ、徳性の涵養せられしこと如何ばかりなりけむ。而して寄宿生徒の爲めに、特に一月十五日より三週間、毎朝午前六時より薙刀仕合型寒稽古開催せられ、舎監沼田先生自ら其の指導に當られしは、舎生一同衷心感謝に堪へざりし所なり。

我等はこれによりて薙刀仕合型をなほほしのみならず、精神修養の助となりしこと尠からざりき。尙一月二十四日には二宮武徳會館士來校、我校の薙刀体操薙刀仕合型を觀覽せられ、大に奨勵鼓舞せらるゝ所あり

に其結果を掲ぐ。

生絲 二百九十匁

眞綿 七十二匁

### 三、郡内小學校長の來觀

本郡内小學校長の方々は、本年も同じく教授訓育の様を見て相互の聯絡に資せむ爲め、一月二十七日午前は萩中學校の參觀を終へ、午後は我校に來られぬ。

我等は先づ出身小學校の校長先生の健在なる温容を見て喜びぬ。一同南園館に少憩の後、各學年の授業を隈なく參觀せられ、其の後講堂に於て小學校長先生方の講話を承る。

先づ我校の校長先生は、本日は諸子の最も喜ばしき一日なるべし。各先生方は多忙なる時間を割き、來校ありしを以て、諸子も其心して御講話を謹聽すべき旨の御話あり。次いで桂木郡視學殿は、小學校の校長先生方は諸子の産みの親の如し。即ち諸子を成育せしめて今日あらしめたるは、小學校の先生方の恩恵なり。本日は本郡の小學校の校長、殆ど全部來校ありしが僅少の時間に全部お話は出來ざる故に、四校の校長先生がお話せらるゝことになりたる趣を話されぬ。續いて椿西校の井町先生は、美容法の基礎眞訣につきて、其の基

たり。

### 二、養蠶と製絲

養蠶は最も婦人に適したる産業にして、これによりて得たる生絲は、我國主要なる輸出品の一なるが故に、將來益々發展せしめざるべからずとは、常に先生より聽く所なるが、我校の養蠶も漸次盛況になれるはげに喜ばしきことになむ。

本年の蠶種は、大草にて蠶量一匁二分を飼育することとなりしが、六月十二日掃立をはじめ七月五日より上簇せしが、七月十日上繭三貫百二十匁、玉繭八百八十匁の收繭を得るにいたりぬ。而して之に要せし給桑總量は、六十貫にして内二十貫は學校に産せしものなりとさく。

飼育の指導には、本永安野の兩先生いと熱心に當たり、日中は補習科三年の通學生の方、日没後は補習科三年の寄宿舎生の方、夫れ々擔當飼育せられしが、天候不順なりしにもかゝはらず、其成績甚だ良好なりきとは、福谷本郡農業技手の當時話されし所ありしなり。

かくて大正六年一月十二日より八日間、福谷本郡農業技手の指導にて製絲の實習をなし、が、これ亦技術の進歩の著しきものありて見事なる生絲を得たり。左

本は實に心にある旨を述べられ、小川校の大石先生は、入嫁の心得につきて、淺野長勝の姫君の話をせられ、地福校の渡邊先生は、米國少女の飛行機乗の題下に、彼國婦人の元氣にして進取の氣象又富み、依頼心なきを望む旨を述べられ、福川校の荒木先生は、羽賀の臺といへる題下に、忠正公の鍊武の往時と其の遺蹟保存の事とを述べられぬ。各先生の御講話はどりも趣味あり、而も皆有益にして味ふべきことなりしかば、我等は親しく母校の校長先生の懐しき温顔に接し其上御講話を承り、しみくと肝に銘するを禁ずる能はざりき。其後南園館に於て、我校の先生方との打合の會合ありしと承りぬ。

### 四、皇后陛下御眞影拜戴式

我校は曩に畏くも、聖上陛下の御眞影を拜戴せしが、未だ 皇后陛下の御眞影を拜戴するに至らざりしを以て、一同常に其の期の至るを翹望して止まざりしが、二月五日 皇后陛下の御眞影を拜戴せしことを洵に有がたき極みなれ。

其の日午前八時三十分、校長先生中野先生は先づ郡衙に行かれしが、同九時岡村郡長殿には恭しく 御眞影を渡されぬ校長先生は人力車上に 御眞影を捧持し

て歸校せられ、本永先生は自轉車にてその前衛をなし、管理者たる郡長の代理として山田郡書記殿の車之に次ぎ、巡查金子氏の車は又これに次ぎ、御眞影を護衛し、中野先生沼田先生は生徒總代として補習科生徒を引率せられて肅々として之を續かれたり。校門の前には各先生並び三年二年一年の生徒、謹嚴なる態度をもて恭しく奉迎す。夫より、御眞影は御影室に奉安せられぬ。午前十時より職員生徒一同、講堂に集りていと嚴かなる御眞影拜戴式行はる。若か代合唱の後、校長先生は恭しく拜戴の辭を拜讀せられ、其の後拜賀に移り、生徒は特に十人づゝ前進して拜賀したり。嗚呼かしこき極みかな。我々は御坤徳彌高くおはします。皇后陛下の御眞影を拜戴するを得たり。我等はかしこき大御心のはをを體し奉り、身を修め家を齊へいやましにこの國の榮えを圖るの覺悟もて、優渥なるおほみひねに答へ奉らざるべからざるなり。

### 五、第五回保證人會開催

梅一輪、一輪はどの暖さも、やうく催す二月二十三日二十四日、我々にては第五回保證人會を開催せられぬ。午後一時よりの通知なりしが、其以前より保證人の方々は陸續と來校せられたり。例によりて授業

れ、笹井代理官殿岡村郡長殿は、ともに謹嚴莊重なる態度にて懇切なる告辭を朗讀せられ、次いで校長先生は沈痛懇切なる口調もて、熱誠に溢るゝ訓辭を朗讀せらる。國弘大佐殿は來賓を代表せられ、いと懇なる祝辭を述べられ、岡本少佐殿は保證人の代表として、校長先生以下各職員に對し鄭重なる挨拶あり。其後在校生徒總代三好シヅメ氏の送別の辭、卒業生徒總代宮原百重氏、修了生徒總代藤原久枝氏の答辭ありしが、いづれも真心の籠もれる裡に、一種の哀調を帯びたる音聲なりしかば、人をして感動せしむること慤からざりき。

かくて式は午後三時すぎに終りしが、笹井代理官殿並に來賓保證人には別室に於て祝餅を供しぬ。これ蓋し卒業生徒、修了生徒の聊か祝意を表する爲め學校内にて前日手づから製せるものなりしなり。夫れより一同の方々は成績陳列所に案内せられぬ。成績陳列所は階下の裁縫室を以て之に充て、裁縫手藝より習字圖畫、さては生花和歌(短冊)にいたるまで、悉く意匠を凝らして陳列せられしかば、しばしは足をどゞめ鑑賞に餘念なき方も多く見受けぬ。かくして嬉しき中に名残つさせぬ證書授與式は終つげぬ。

### 第五回卒業式に於ける林知事閣下の告辭

のさまを巡視せられ、其の後講堂に集合せられしが、校長先生は本校の教育主義より説き起こされ、青年處女期の危機、其教育上の苦心、學校家庭連絡の必要、本校生徒卒業後の概況、卒業生の進學に關する注意と指針等に就き、いと熱心に懇談せられしが、保證人の人々も我々の精神のある所を夫々了得せられ、げに女子教育は困難なるべしなど洩らざるる方もありきとぞ。夫れより別室にて級監の先生方との打合せあり。三年補習科の保證人の方は、南園館に集まられ、特に卒業修了後の注意につき御打合ありしよしなり。あはれ我等の父兄母姉保證人の方は、我等のため多忙なる身も厭はせられず、態々來校なりて種々協議を重ねさせられしなり。學びの道にたづさはる我等、いかでか報恩謝徳の念慮もて、いよゝいよそしみ勵ませして可なるべき。

### 六、第五回卒業證書授與式 第四回修了證書授與式

大正六年三月二十二日(本年以後は毎年三月二十二日と定めらる)午後二時より、第五回卒業證書授與式第四回補習科修了證書授與式舉行せられぬ。唱歌君が代・勸語奉讀・勸語奉答ありし後、證書並に證書の授與あり、其後中野先生は學事を詳細に報告せら

山口縣阿武郡立實科高等女學校茲に卒業證書授與式を學ぐるに臨み、卒業生諸子が多年螢雪の功を積み、今や本校所定の教課を卒へ、婦人の處世に必須なる智徳と技能とを備へたる成跡を觀るは、諸子の爲め今日の成業を祈れる父兄諸君と共に、本官の深く満足する所なり。諸子の喜悅亦察するに餘あり。然れども本校に於ける教科の終了は、單に自己修養の端緒に過ぎず、將來婦人の天職を完ふせんには尙高き徳操と社會の實際に於ける深き智能とを要するや明なり。夫れ婦人の學識及徳操は、家庭の幸福を生じ社會の美風を養成する源たり。若し諸子にして單に才藝に矜り、女子に向ふべき温雅貞淑の徳に缺くる所あらんか、是決して諸子の本校に學ぶ所以にあらざるなり。今後或は他の學校に進むと、直ちに家庭の實務に従ふとを別たす、須らく其の既習の教科を基本として、益自ら研鑽修養に努め、本校教養の目的を副はんことを期すべきなり。之を告辭とす。

### 第五回卒業式に於ける岡村郡長殿の告辭

卒業生諸子。諸子は多年螢雪の功を積み茲に卒業證書を受くるの榮譽を荷はる、獨り諸子の爲に之を祝するのみならず、寔に邦家の爲慶賀に堪へざる所なり。惟ふに泰西文明の餘影は、近時往々にして日本女子



の特色を云爲せしむるに至るもの尠しとせず。本校は特に此等の時弊を避け、専ら地方適切な實科教育を施すに努め、今や開校五週年卒業生三百の多きを算し、漸く地方各方面に學校教育の効果を見るに至れるは、本官の最喜とするところなり。然り而して諸子の今日あるは、朝夕家門に焦慮して、智能の向上を希へる母姉の慈愛と、日夜教庭に薰陶して徳行の堅實を導ける師友の恩恵とに由らずんばならず。

諸子希くは今後益本校に學ぶところを研鑽習熟して、勵精事に當り、恭儉己を持し、克く其の身を省みて教育ある女子の本分を完うし、以て本校教養の旨趣に對へんことを、一言所思を陳べて之を告辭とす。

### 七、入學試験執行

校運日に發展して入學志願者の如きも、本年は殊に増加せしを以て、特に志願者の便宜を考へ、試験場を本校・須佐・地福の三個所にて執行せらるゝこととなりしよして、三月二十七日中野先生は須佐に、安野先生は地福に出張せられたり。

同月二十八日、午前九時より先づ第一學年入學志願者の學科試験、國語・算術・裁縫の三科目につきての考試あり。續いて身體検査及口頭試問あり。其後第二學年

補缺入學試験を執行せられたり。翌二十九日、午前八時より第二學年補缺の學科試験の昨日の残りせられしが、午後五時二十分全部の考試を完了せり。かくて三月三十一日、午後三時第一學年に九十八名、第二學年補缺入學として十名の方に入學を許可せられ其の氏名、生徒控所に發表ありたり。

### 八、本學年の開始

四月四日午前八時より始業式を、午後一時より入學式を舉行せらる。校長先生は先づ我々學校教育の方針並に生徒の心得、保證人に對し望まるゝことを詳細に説き示され、桂木郡視學殿は懇なる祝辭を述べられ、ついで保證人總代金子乙助氏職員に對しての挨拶あり。中野先生は本校學規及び生徒心得につきて朗讀せられぬ。夫れより在校生徒總代として倉富イナ氏の歡迎の辭ありて、新入生徒總代中村ヤエ子氏の挨拶あり。在校生徒新入生徒一同互に一禮の上和氣鬱然たるうち閉式。式後教室にて級監の先生より、夫れ〴〵生徒の心得べきことなど、いと細やかに話ありて希望多き本學年はいよ〴〵心氣暢達の間いと眞面目に開始せられぬ。

### 九、學科受持及級監各學級人數

一、學科受持		(括弧内は科外)	
學科	受持先生	學科	受持先生
修身	校長先生	裁縫(生花)	世良先生
國語	中野先生	茶儀按摩	田中先生
作法理科及家事(ローマ織)	沼田先生	圖書唱歌	齋藤先生
体操園藝	本永先生	裁縫	田村先生
裁縫	藤野先生	裁縫手藝	上利先生
裁縫手藝	井上先生	(生花茶儀)	清先生
數學地理	奈良先生	(筆曲)寄宿舎生	先生
國語園藝	安野先生	歷史教育は先生缺員につ	先生
		き、當分校長先生・中野先生・安野先生に於て擔任せらる。	

### 二、級監各學級人數

學級	人數	級監
補習科	三十人	沼田先生
第二學年梅組	四十五人	藤野先生
第三學年菊組	四十人	井上先生
第二學年梅組	四十九人	田村先生
第二學年菊組	四十九人	齋藤先生
第一學年梅組	五十人	世良先生
第一學年菊組	五十人	奈良先生

### 一〇、竹内先生の退任

大正六年四月十一日に竹内先生の告別式は行はれぬ。午後三時講堂に集りて先生を待つ。先生は校長先生に導かれて入り來られぬ。今日は何となく打沈まれしけ

はひにて、いひしれず悲しかりき。中野先生の學式の辭について、校長先生は沈重なる口調もて、先生の御病氣の爲め遂に退任を願ひ出でられたることより、本校創立以來真心もて本校並に南園會のために別けて會報編輯の衝に當り力を盡されしかば、行末長く本校の爲めに職あらむことをひたすらに希望せしに、今はそのことも出來ずなりしことなど説かれぬ。かくて校長先生は、今は御長男これび東京高等工業學校に優等成績にて入學ありしは先生の希望の光明なること、又將來御家門の繁榮を祈るのみ、とお話ありて降壇せられぬ。引續いて竹内先生は、徐に口をひらかれて、私は先年來眼病の侵かす所となりて、教授も思ふにまかせざりしに、皆さんは常におどなくして熱心な業を受けられしこと、げに今となりて思へば、いとゆかしき心地ですと述べられしが、歎歎するもの、かしてに聞こゆぬ。さて先生は語をついで本校の將來、並に生徒の行末につきても、種々懇切なるお別れの訓辭ありて降壇せられぬ。生徒の總代としては都築ユキコ氏は、悲痛なるお別れの挨拶と、薰陶せられし鴻恩に對して感謝の意とを述べられし。其後校長先生は、南園會よりとして記念品目錄を贈呈せられたり。此の日竹内先生は、特に南園會に基本金として金參圓寄附せ

られぬ。嗚呼先生はかくして退任せられぬ。先生は明治四十五年三月三十一日を以て本校に就職せられ、在職滿五ヶ年、而して其間常に眞摯熱誠、我等を導き給ふことをよき楽しみとせられしに、今や眼疾の爲め退任せらるゝを見る。我等の特に痛歎措く能はざる所なり。希くば先生加餐靜養尙陰に陽に吾等の爲め垂教指導せられてよ。

### 一一、本校基金の寄贈

本校創立當時より一方ならず、我校の爲め援助を與へられたる本會名譽會員岡十郎殿の令夫人恭子殿は、四月十五日本校基金として金壹千圓を寄贈せられぬ。我校は是等の人の厚意によりて益々其基礎を固うすることを得べし、とは當に我等の感謝感想のみにあらずるべし。校長先生は同月二十一日を以て、禮狀を發送せられしと承る。

### 一二、毛利公爵の姫君御二方の來校

志都岐の花も眞盛なる四月十六日の午後四時すぎ、毛利公爵の姫君御二方顯子様茂登子様には御つきの人々と共に自動車にて御來校とばされぬ。生徒一同は

れを見るに至りぬ。已に地ならしを終へ、周圍の土塀も殆ど完成して、我等の快活に運動せむことを待つものゝ如し。又今までの運動園の邊りには、新に完備せる作法室、割烹室の建築せらるゝ由にて、已に地どりも終りたるやうなり。舎監室はこれび新に西方に建築せられる、ことゝなり、これ亦最早や上棟も終りしなり。其外農園の如きも、非常に擴張せらるゝことゝなり、已に果樹園・桑園・温床・菊花壇は、先生方の日々の御指導によりて見違ふるやうになりぬ。又個人園は、

## 本會記事 會報部

(大正五年十二月より  
大正六年四月に至る)

### 一、松浦名譽會員の來校

本校創立に際し種々企劃經營せられ、又南園會創設に關し一方ならず盡力せられたる松浦名譽會員殿は、大正五年十二月來秋の初、その月十三日態々來校せられぬ。南園館に少憩せられし後、校内を巡視せられ、さて講堂に於て講話あり。先づ創立當時のことより説き起こされ、數年見ざる内に甚だよく整頓せしこと、並

先生方と共につゝしみて門前に迎へまつる。御三方にはともく學習院女學部を御卒業とばされしと洩れ承りしが、清楚高雅なる御姿に御性質のほどもゆかしきにしづく、と南園館に歩を運ばせたまひて、こゝにて先生方や生徒總代に御對面あり。かくて校長先生は我校の來歴より教育上のこと、南園御殿のことなど、つばらに説明せられしが、とさうなづかせ給ひて、そのかみの由緒、いとどなつかしう思はせらるゝやう推しはかりたてまつりぬ。南園館の後なる庭園を歩かせ給ひて後、講堂其外教室を御巡視あそばされしが、時刻も迫りぬれば一同の見送を受けさせられて、修善女學校さして出立せられぬ。此日生徒の手になれる茶菓を供へしに、御二方ともいと喜ばせられたるやう拜しまつりぬ。

### 二三、校運の隆昌

本年は恰も我校創立五周年に相當せるが、校運漸く隆昌にして、諸般の施設著々歩武を進め居ることを嬉しけれ。

本年の入學志願者の、頗る激増せしは前述の如くなるが、尙校地校舎の擴張も日を追ひて進捗し、新に設けられたる東方の運動場は従前のに比し約二倍餘のそ

一人につき約一坪を分配せらるゝにいたるべきよしにて、我等は先生方の御指導により、益愉快に栽培することを得るにいたりぬべし。

かくて本年はめでたき創立五周年祝賀の式典も行はるゝよしにて、我校はこゝに一新紀元を劃し、益鞏固なる基礎の上に、穩健着實なる行路を辿り、光明ある發展をなすべし。あゝ我校の前途多望なるかな。茲に本校記事につきて擲筆すると共に、會員の方々の健康と祝福とを祈る。

### 二、南園會臨時總會並に同新年茶話會

大正六年一月二十二日午後三時、南園會臨時總會を開催す校長先生先づ會長として開會の辭を述べられし

に益實料の特色を發揮して創立當初の趣意に添ふべきことなど、いと懇切に話されしが我等は頗る感激し、如何にもして此講話に答へまつらざるべからざるを思ひぬ。其後校長先生は松浦名譽會員殿に厚く挨拶せられし後、この御講話の芳志に對ふべく益學業にいそしみ奮勵すべく、心掛けざるべからざる旨を諭されき。かくて校内を巡覽せられ、愉快の面持にて歸宿せられぬ。

後、中野先生副會長として本校創立當時より特に深く援助と、厚意とを有せらるゝ本會名譽會員久原房之助殿、同久原清子殿と共に本會特別名譽會員に推戴の件につき提議せられし、満場一致を以て可決し、續いて本校創立當時より種々盡力せられ因縁淺からざる、岡十郎殿を名譽會員に推戴の件につき提議せられしに、是れ亦満場一致を以て可決せり。かてく夫れ、推薦狀を發送せしが、幸に快諾せられしこと嬉しき極みなりけれ。その日引續いて新年茶話會を開催せしが、校長先生は先づ新年にふさはしき晴れやかに興味ある講話をものせられしかば、會員一同は皆歡喜を以て謹聴し、次いで本永先生の垣根のいさかひ、亦滑稽の中に諷刺ありて人を笑はせ、竹内先生は例の莊重なる口調を以て、机上の菓子松の葉龜の甲煎餅に因みて蓬萊の話せらる。是れ亦めでたき話。折ふし卒業生植村サチコ氏、小笠原嘉子氏來會せられしが此席に列せられ、小笠原さんは老木の椿の唱歌節面白く歌はれ、植村さんはスチンソンの飛行機宙返りを目撃せられしことを委しく説明せられぬ。此茶話會にて最も珍妙なりしは、福引にして其當りたるものは、必す何か一つ演出せざるべからず。さて夫れを終へばお祝一重を得さす定なりしが、イの一番に當りしは一年生前

田ヒデ子さんなりしが、曾呂利新左衛門の話に一同を笑はせ、歡笑嬉語ついで起り、福引いよく出でて清談湧き、窓外時に六花紛々たるにこゝのみは時ならず春風漂ひて、清興盡くる所を知らず。めでたき新年茶話會は、かくして喜びの裡に閉會しぬ。

### 三、南園會送別會茶話會

光榮ある證書授與式は三月二十二日終り、越えて二十四日午後一時より卒業修了せられし方の爲に、送別茶話會は開催せられぬ。校長先生は先づ席上にて水戸黃門光圀卿の少壯の時、極めて理性に富み意志鞏固なりしことを詳細にお話ありて、卒業修了の人々も男女の差こそあれ、かくあるべき旨いと懇なる訓話に、席上の人皆感にうたれぬるやう覺ゆぬ。竹内先生平安古の二美談につきてけなげなる二孝子の實話、是亦有益の話なりき。ついで餘興に移り、中野先生本永先生の送別又は前途を祝福する詩歌、共にふもむさありて美しき情緒を表現せられたり。修了せられし方の送別の唱歌、一種言ふべからざる情感を與へ、卒業せられし方々の獨得の感吟、説話とりも面白う在校生徒の名残りを惜める談話、明日より袖を別つこの席にさうて

は、とらるに涙の催さるゝぞかし。かくして送別會は閉會。

### 四、南園會維持費寄贈

南園會名譽會員増山宗史殿は、四月三日本會維持費として金拾五圓寄贈せられぬ。同月五日中野先生其謝禮として増山家を訪問せらる。こゝに紙上にて謹で其厚意を謝す。

### 校外會員消息

(節略括弧内は通信日附)

(大正五年一月以降此節)とあるは最近の消息

- 吉本よし様(舊神村) 大正五年一月御男子を分娩せられ此節は朝鮮から御主人の宅におこし。(大正五、二、八)
- 佐伯千代子様 御歸郷後無事自宅にて裁縫御研究とのこと。(大正五、四、一八)
- 桂木トヲ様 御歸郷後無事自村下小川尋常小學校に奉職せられしが此節滿一ヶ年御在職成績良好の爲め裁縫科専科正教員の免許狀を戴かれ自村小川尋常高等小學校に御榮轉のよし。(大正五、五、三一)

- 大中てい様 御歸郷後無事熊毛郡三井尋常高等小學校に御在職のこと。(大正五、四、三〇)
- 阿部タケヲ様 御歸郷後無事養蠶に御精勵のよし。(大正五、八、二九)
- 伊藤みさを様 御歸郷後姉様御病氣につき親切に看護せられ日々家業にいそしまれ南園會報をまら居ること。(大正五、一〇、一九)
- 能美ヨシ様(舊片山) 新旅順吉野町に在住家事のひまにお野菜を作られ大正五年十一月三日當校の記念日を幸旅順の古戰場をどはれしよし。(大正五、一、一〇)
- 河上千代様 阿武郡篠生村小學校に在職、體育會を見たしのこと。(大正五、一、二、六)
- 藤井政様(舊大賀) 北海道室蘭日本製鋼所社宅に無事家業にいそしまれ傍園藝をこゝせられ會報に昔をしのぶのこと尙承ればお子様御分娩のこと。(大正五、一、二、三)
- 小野さく様(舊松村) 下關田中新町字中島に御母様御主人様御三人暮南園會報をまら居ること。(大正五、二、一七)
- 岡藤みよ子様(舊藤本) 香川縣丸龜市風袋町にて無事家事にいそしまれ時々懷舊の情にたへぬのこと。



岡	今地	浮里	永井	金子	山本
村木	前田	能美	久保田	増山	藤田
宗樂	山中	渡邊	富士見	中原	松浦
重枝	齋藤	末成	平田	則子	千代子
江山	高橋	野村	計	九拾七圓	
後藤	下間	厚東	前年度よりの累計金	百七拾七圓	
上田	高木	國重	右は特別會計として郵便貯金に付せり		
白根	安田	伊佐			
植村	倉田	金子			
寺田	小野	山根			
田原	倉田	藤井			
大賀	藤井	山下			
竹内	森重	堀永			
伊藤	山下	藤村			
南方	君谷	佐々木			
齋藤	伊藤	國重			
河上	桂木	阿武			
増野	井本	佐々木			
塩見	水野	榎原			
原	吉岡	井上			
野村	井町	小笠原			
藤山	世良	内藤			



會 員 名 簿

會員名簿

(大正六年四月三十日現在)

特別名譽會員

兵庫縣武庫郡本山村 (逝去)

久原 文子氏

萩町河添(吉敷郡嘉川村)  
本校内住宅  
(富山縣西礪波郡津澤町)

中野 貞介

全

久原 房之助氏

萩町十日市(吉敷郡嘉川村)

沼 由 恒

全

久原 清子氏

山田村  
(廣島縣沼隈郡千年村)

本 永 旭

名譽會員

兵庫縣武庫郡打出村

齋藤 幾太氏

本校住宅(廣島縣沼隈郡千年村)

井上 マツヨ

兵庫縣神戸市奥平野

田村 市郎氏

本校住宅(福井市寶永中町二五)

奈良 小千代

玖珂郡岩國町

松浦 誠氏

椿 村

安 野 章

阿武郡明木村

瀧口 吉良氏

本校寄宿舎(都濃郡福川村)

世 良 ハツ

豐浦郡長府町安養寺  
(全郡勝山村)

榎 俊 治氏

萩町細工町

河 村 一 郎

阿武郡萩町橋本

増山 宗史氏

萩町濱崎

齋 藤 タカ

阿武郡萩町(吉敷郡大内村)

岡村 勇二氏

萩町河添

田 村 繁

大阪市東區生玉町

岡 十 郎氏

萩町吳服町

上 利 政 三

特別會員

萩町江向(熊本市外黒髮村)

米原 鶴 太

萩町東田町

中 村 彌 兵

舊特別會員

阿武郡佐々並村 (死亡)  
 厚狹郡役所 (武見)  
 鹿兒島縣鹿兒島郡西武  
 田村武木五五 (舊姓豊田)  
 滋賀縣立女子師範學校  
 愛知縣幡豆郡西尾町錦城町  
 兵庫縣赤穂實科高等女學校  
 (岡山縣都窪郡倉敷町)  
 岡山縣岡山市二番町

松田 ハル、長崎縣對島中學校  
 三隅要之助 萩町土原  
 植村 秀枝 萩町河添(吉敷郡嘉川村)  
 松宮 シヲ 萩町八丁川島(阿武郡德佐村)  
 高田 テツ 萩町南古萩  
 河原 夏 新瀉縣高田高等女學校  
 前田 直子 萩町平安古  
 (補本校補習科終了)

坂口 五郎  
 山内 清次  
 中野 スエ  
 藤井 二郎  
 安藤 ナエコ  
 山田 兵吉  
 竹内 新三郎  
 (結、結婚) 恒(旧姓沼田)

校外會員

第一回卒業生 大正二年三月卒業

氏名 本籍 近況  
 松野 ヨキ 阿、萩土原 (非)  
 伊藤 コウ 阿、萩土原  
 金田 トキ 大、瀬戸崎 (結) (舊姓)  
 倉田 チヨ 阿、萩西田町 (結) (舊姓)  
 津田 ケン 阿、萩東田町 屋水木方  
 竹内 ハミツ 阿、萩惠美須町 大坂市北區  
 高垣 清子 阿、萩古萩 野田十丁  
 藤井清一

氏名 本籍 近況  
 山下 歌子 阿、椿、沖原 (結) 蕨澤嘉義斗  
 藤田 ハル 阿、萩惠美須町 南浦明峯町 (結) 朝鮮鐵  
 金子 クハツ 阿、大井村 (結) 奈古尋常高等  
 藤田 エサト 阿、福川村 小學校在職  
 藤井 マキ 阿、德佐村 (結) 小學校在職  
 平田 トシヨ 阿、萩熊谷町 (結) 小學校在職  
 金子 桃代 阿、椿郷東分村香川津 白水尋常  
 松本 早知 阿、萩東田町 (補) 高等小學校在職

氏名 本籍 近況  
 宮本 タカツ 阿、萩南片河 (補) 東洋製糖  
 大草 政子 阿、萩 (結) 山口町水上  
 山本 マサコ 阿、萩濱崎 (補) (舊姓山本)  
 中島 ハスエ 御許町 (補) 小學校在職  
 齋藤 ミドリ 阿、大 (補) 福川尋常高等  
 久保田 ミサコ 阿、椿郷東分村 (補) 小學校在職  
 永井 ハミツ 阿、椿郷 (結) 東府下中野  
 佐々木 フマコ 阿、三見村 (補) 町一九八四  
 田中 冬子 阿、萩 (補) 宇田尋常高等  
 小學校在職

野上 リサダ 阿、萩土原 越ヶ濱尋常小  
 倉田 静子 阿、萩西田町 (結) (補) 學校在職  
 金子 ママ 阿、福川村 (補) 學生在職  
 藤井 阿、萩橋本 學生在職  
 氏名 本籍 近況  
 上原 マサ 阿、萩新堀 (結) (舊姓大岩)  
 藤井 しな 阿、萩江向 (結) (舊姓松村)  
 岡 レン 阿、紫福村 (結) (舊姓新堀)  
 桂 シメエ 阿、椿青海 (結) (舊姓國司)  
 上田 トミ 阿、萩河添 東京在原郡池  
 石津喜與子 阿、萩東田町 (結) 上四七四村方  
 上田 信子 阿、明木村 福岡縣久留  
 神代 君子 阿、萩河添 米市外三井  
 大賀 チヨ 阿、萩鹽屋町 郡御井町  
 島田 壽美 阿、椿雜式町 山口町伊勢  
 上田 政子 阿、椿沖原 山口町伊勢  
 高橋 恭 阿、奈古村 (結) (舊姓小野)  
 中原 千代 阿、萩橋本 (結) (舊姓佐々  
 村田 イシ 阿、川上村 (結) (舊姓) 佐々

飯尾 マサコ 阿、椿郷東分村 (結) (舊姓倉重)  
 伊藤 於松 阿、大井村  
 宮本 タカ 阿、萩西田町  
 横地 幸 阿、萩江向 (結) (舊姓河野)  
 田邊 カメ 阿、椿郷東分村 (結) (山下)  
 河村 タミ子 阿、萩熊谷町 (結)  
 澄田 ハツ 阿、萩堀内  
 吉本 ヨシ 阿、萩米屋町 (結) 椿雜式町  
 阿部 マス 阿、萩北片河 (結) 大津郡深  
 岡部 シゲヨ 阿、須佐村 育英尋常高等  
 三好 貞子 阿、萩西田町 小學校在職  
 木成 豐子 阿、萩平安古 (結) 姫路市  
 阿部 ミサ 阿、萩今古萩 (補)  
 多田 マツ 阿、椿郷東分村 (補)  
 草刈 フヲ 阿、萩河添 (補)  
 三宅 節美 阿、大嶺村 (補)  
 藤井 チヨ 阿、萩土原 (補) 萩東  
 難波 ハツヨ 阿、萩米屋町 (補) 萩東  
 伊藤 アキ 阿、大井村 (補) 萩東  
 伊藤 霜 阿、萩堀内 (補) 萩東  
 堀 千代 阿、萩濱崎町 (補) 萩東  
 長見 キシコ 阿、萩鹽屋町 (補) 萩東

氏名 本籍 近況  
 桂 ヨキ 阿、椿郷 (結) (舊姓中原)  
 安達 ハナ 阿、椿郷東分村 (補)  
 岡藤 ミヨコ 御許町 香川縣丸龜市風安町  
 原 キヨ 阿、萩平安古 (補)  
 小野 さく 阿、萩 (結) (舊姓松村)  
 岡部 タカ 阿、福川 下關田中新町字中  
 三宅 美智子 阿、萩江向 (補) 萩東  
 山根 英子 阿、萩河添 (補) 在愛知縣  
 大中 テイ 熊淺江村 (補) 小學校在職  
 氏名 本籍 近況  
 栗屋 雪 阿、萩江向  
 阿部 タケヨ 阿、彌富村  
 藤村 マツ 阿、川上村 萩江向  
 松野 花子 阿、萩土原 (結) 萩東  
 三浦 チセ 阿、萩濱崎  
 河野 由子 阿、萩 (結) 名古屋市中區  
 河野 ミツコ 阿、萩今古萩 千早町一丁目二  
 村上 ミチ 阿、萩東田町 山田町

第三回卒業生 大正四年三月卒業

氏名本籍近況

大森 チヨ 阿、萩濱崎  
長崎チエ子 阿、山田村(結)東京本郷五丁目一四番地  
西山 ヨシ 阿、萩川島  
國弘 トメ 阿、萩川島  
林 清子 阿、萩平安古  
君谷喜與子 阿、吉部村 高俣尋常高等小學校在職  
田中ツルヨ 阿、吉部村  
田村 操 阿、椿沖原 大阪府堺市  
植村フミヨ 阿、椿郷(結) 在(舊姓田中)東分村  
秋枝アヤコ 阿、福賀村  
原 フミ 阿、川上村(結) 在(舊姓長井)萩川島  
植村サチコ 阿、椿大谷(結) 在(舊姓山本)阿三見村  
山中 幸子 阿、萩橋本  
福 福サ 阿、椿大谷(結) 在(舊姓伊藤)阿川上村  
齋藤 キク 阿、椿大谷  
阿武 カメ 阿、椿郷東分村(結) 在朝鮮  
黒瀬キミヨ 阿、萩江向  
山下 サト 阿、椿郷東分村前小畑  
柳井 クリ 阿、椿沖原(結) 在(舊姓三橋)阿山田村  
中原 トヲ 阿、萩土原(結) 在(舊姓)寺田  
吉賀 トシ 阿、萩濱崎 在(舊姓)岡村シゲコ

重枝 フキ 阿、萩橋本  
中村 スミ 阿、椿村(結) 在(舊姓)大田 在横濱  
松原 ツル 阿、萩米(結) 在(舊姓)島根縣津和野町本町二丁目  
大田 ヨシ 阿、萩土原 在(舊姓)津和野町本町二丁目  
馬屋原孝子 阿、萩郷東 在(舊姓)津和野町本町二丁目  
小笠原嘉子 阿、米屋町(結) 在(舊姓三好)在大阪  
長崎チエ子 阿、萩江向(結) 阿三見村  
三浦 ヨシ 阿、萩江向  
金子 トミ 阿、椿郷東分村香川津  
岩崎サダコ 阿、萩江向(結) 在(舊姓)阿座上  
長谷 千代 阿、萩津守町  
石井千代子 阿、萩東田町  
古橋 喜代 阿、萩川島  
野村 フヲ 阿、萩米屋町  
堀永フクコ 阿、萩東田町  
松岡シズコ 阿、椿郷東分村  
伊藤ミサオ 阿、萩江向 在(舊姓)道淺屋醫院内郡三川町  
寺田 クリ 阿、椿郷東分村前小畑  
岡村シゲコ 阿、萩平安古

阿部 チヨ 阿、萩古萩  
三村 キク 阿、椿郷東分村上野津郡  
溝部 阿、椿郷東分村上野津郡  
小野フミヨ 阿、奈古村 在(舊姓)大田 北海小學校在職  
藤井 政 阿、萩米(結) 在(舊姓)大田 北海小學校在職  
竹重 春 阿、萩江向 在(舊姓)大田 北海小學校在職  
宮原 ヒサ 阿、萩平安古  
松尾ミドリ 阿、萩江向(結) 在(舊姓)堀江 椿郷東分村  
光田 コト 阿、萩熊谷町  
村田 須惠 阿、萩江向  
林 保子 阿、萩平(結) 在(舊姓)渡邊 山口町下立遠藤 トキ 阿、萩古萩  
遠藤 トキ 阿、萩古萩  
河村 豊子 阿、萩橋本 山口町下立  
和田 秀子 阿、萩河添 小路日高方  
和島 愛子 阿、吉部村(結) 在(舊姓)大津郡三  
山本ウメコ 阿、萩濱崎(補) 阿三見村  
椿 嘉子 阿、椿郷東分村 越分濱尋常小  
吉田 須美 阿、萩川島(補) 學校在職  
齋藤 マス 阿、大津郡日置村神田  
厚東 佐世 阿、椿郷東分村前小畑(補)  
南方 京 阿、椿郷東分村中小畑(補)

倉増千代子 阿、高俣村(補) 在(舊姓)死  
河田 シズ 玖、米川村(補) 萩町土原 美禰郡大  
倉田 尊子 阿、萩吉田町(補) 田村 美禰郡大  
邊見 菊代 阿、椿村(補) 高等小學校在職  
村木 秀子 阿、萩堀内(補)  
能美滿壽子 阿、萩土原(補)  
内藤ヨシコ 阿、萩江向(補) 在(舊姓)北海道  
金子 シツ 阿、萩平安古(結) 在(舊姓)北海道  
河野 千世 阿、萩土原(補) 小學校在職  
能美 ヨシ 阿、椿郷東分村(結) 在(舊姓)吉野町三番  
井上マツヨ 阿、福川村(補) 吉野町三番  
水野 ハナ 阿、萩河添(補) 在(舊姓)平木  
金子 清 阿、宇田郷村(補)  
榎原マサミ 阿、萩堀内(補) 在(舊姓)宇田郷村  
山本 松江 阿、萩江向(補) 在(舊姓)宇田郷村  
松井 文子 阿、萩川島(補) 在(舊姓)宇田郷村  
宋田 ヨシ 阿、福川村(補) 在(舊姓)宇田郷村  
米原ハツメ 熊本市外黒髪村(補) 在(舊姓)宇田郷村  
鈴木 壽子 阿、萩西田町(補) 在(舊姓)宇田郷村  
國重 静子 阿、椿郷東分村上野(補) 在(舊姓)宇田郷村  
佐伯千代子 阿、福川村(補) 在(舊姓)宇田郷村  
阿武 文子 阿、福川村(補) 在(舊姓)宇田郷村

第四回卒業生 大正五年三月卒業

氏名本籍近況

吉武 静 佐、中ノ關村 東京淀橋区柏木一五武田裁縫女學校寄宿舎内  
増野 クリ 阿、萩濱崎 在(舊姓)舎内  
山根 豊子 阿、嘉年村 在(舊姓)舎内  
藤原 久枝 阿、椿郷東分村(補) 在(舊姓)柳井  
北村 光子 阿、萩江向(結) 在(舊姓)柳井  
能美 キク 阿、萩唐樋 在(舊姓)柳井  
世良 菊野 阿、椿村濁淵 在(舊姓)柳井  
浮里ミヨコ 阿、三見村(補) 在(舊姓)柳井  
猪口 菊枝 郡松明村 常高等小學校在職  
横山 ツル 阿、萩河添 在(舊姓)柳井  
井町 スミ 阿、三見村(補) 在(舊姓)柳井  
江山タキコ 阿、椿村雜式町 在(舊姓)柳井  
田原 秀子 阿、山田村與玉江 在(舊姓)柳井  
齋藤 キク 阿、萩御許町 在(舊姓)柳井  
河村 ミト 阿、萩土原(補) 在(舊姓)柳井  
伊佐 キミ 阿、萩橋本(結) 在(舊姓)柳井  
久保田ヒデ 阿、椿郷東分村香川津 在(舊姓)柳井  
下間 静子 阿、萩吉田町(結) 在(舊姓)柳井  
高壽ヨシコ 阿、山田村玉江浦 在(舊姓)柳井

井上富美子 阿、萩江向 東京市四谷區永住町二番地  
石光 茂子 阿、萩下五間町  
吉村 キク 阿、椿郷東分村中倉  
安田 高子 阿、萩河添  
末武 満子 阿、椿郷東分村越ヶ濱  
堀 君代 阿、萩江向  
山本チヨコ 阿、萩平安古(補)  
國司 八重 阿、椿郷東分村鶴江  
宗樂シゲコ 阿、萩橋本  
高橋タカコ 阿、萩江向  
植村 雪子 阿、椿郷東分村鶴江補  
阿武 ミユキ 阿、椿郷東分村香川津(死亡)  
村木フミヨ 阿、椿郷東分村香川津  
花村 秀子 阿、萩堀内 在(舊姓)飯島  
原 末 阿、萩平安古 在(舊姓)飯島  
吉岡タケヨ 阿、高俣村 在(舊姓)飯島  
白根 光子 阿、萩濱崎 在(舊姓)飯島  
松浦 マツ 阿、川上村(補) 在(舊姓)飯島  
吉田ヨシコ 阿、萩濱崎(補) 在(舊姓)飯島  
小笠原マス 阿、萩堀内 東京府下巢鴨町二九四番地  
野村 文子 阿、萩御許町 在(舊姓)飯島  
渡邊 八百 阿、萩江向 東京本郷林町



永田 操 阿、椿郷東(舊姓厚藤郡字部)分村香川津(結)植村村字部  
重枝 トロコ 阿、萩橋本  
齋藤 テル子 阿、萩濱崎 朝鮮釜山南濱町 齋藤七郎内  
大田 タネ 阿、萩津守町 在朝鮮  
原田 ヒサ 阿、山田村玉江浦  
高木 梅代 阿、萩濱崎  
井本 龜子 阿、須佐村  
前田 トミコ 阿、地福村  
下藤 富美 阿、萩南古萩(結) 不詳  
中隈 千代 島根縣濱田(補) 萩川島  
佐々木 フサ 阿、生雲村  
吉山 アキコ 阿、山田村倉江  
長谷川 トシコ 阿、篠生村(結) 山内道延  
野村 マツ 阿、椿郷東分村越ヶ濱  
中村 絹子 阿、萩川島  
中村 ヨシ 阿、萩川島 在朝鮮  
桂木 トヲ 阿、小川村 小川尋常高等小學校在職  
岩田 豊子 阿、山田村奥玉江  
原川 壽子 阿、萩土原(補)  
長見 トシコ 阿、福賀村(補)  
藤原 ふじの 佐、防府町(補) 萩平安古

竹内 文子 佐、島地村(補) 萩川島  
野上 壽恵 阿、萩土原(補) 大正六年三月卒業  
堀 綾子 阿、萩上五間町  
中村 ノブ 阿、萩江向(補) 不詳  
齋藤 ヤスコ 阿、椿大谷 不詳  
玉井 芳江 阿、萩江向  
藤井 ヨクセ 阿、紫福村 神戶市有井 曾四五ノ九  
難波 アキ子 阿、萩米屋町(補)  
村上 マス 阿、萩東田町  
石川 文子 阿、椿郷東分村(補)  
堀 雪子 豊、勝山村 豊浦郡長府町安養寺  
岡本 ミチ 阿、萩吉田町(補)  
山下 マス 阿、山田村(補)  
石井 壽萬 阿、萩土原 東京赤坂區新坂町六八ノ千葉菊一方  
上田 ツル 阿、萩御許町(結) 舊姓阿武 萩東田町  
柳井 春枝 阿、萩濱崎(結)  
中原 俊子 阿、萩橋本(補)  
後藤 アサ 阿、萩今古萩  
山中 照子 阿、萩橋本  
河村 千代 阿、萩西田町 不詳  
藤井 貞子 阿、萩米屋町

都築 ユキコ 阿、生雲村(在補) 阿、萩橋本  
宮原 百重美、赤郷村 長門町古江ノ路  
茂住 タミ 阿、萩平安古  
中村 キク 阿、三見村  
倉富 イチ 都濃郡鹿野村(在補) 阿、萩江向  
富士見 フサコ 玖、岩國  
伊藤 芳子 阿、大井村  
河村 千代子 阿、三見村  
小河 キク 阿、小川村(結) 小川村  
伊藤 トミコ 阿、椿郷東分村  
伊藤 睦子 阿、大井村  
長井 トシ 阿、川上村(在補) 萩町川島  
師井 あい 阿、萩熊谷町  
厚東 ヨシ 阿、山田村奥玉江  
竹内 好子 阿、萩古萩  
池田 京子 阿、萩熊谷町(在補)  
藤本 芳江 阿、萩御許町(結) 萩  
武田 アヤ 阿、山田村奥玉江  
田上 ヨシコ 阿、山田村奥玉江(在補)  
並川 サヨ子 阿、萩河添 不詳  
中島 ヨシ子 阿、萩土原  
中谷 ツル 阿、萩熊谷町

第五回卒業生 大正六年三月卒業  
氏名 本籍 近况  
コウ 阿、三見村  
トキ 阿、奈古村  
フミ 阿、椿郷東分村香川津  
雪江 阿、大井村 朝鮮釜山樂天町吉見フシ内  
伊藤 ヨシ 阿、椿郷東分村  
村上 政子 阿、萩土原  
松尾 壽 阿、椿郷東分村  
藏貫 ツル 阿、生雲村(在補) 本校寄  
椋木 アサ 大、三隅村  
河井 サチ 阿、萩川島  
福原 英子 阿、篠生村  
岸 静江 阿、椿村金谷  
石川 ハル子 阿、椿村沖原(在補)  
松本 八重子 阿、萩江向(在補)  
近藤 貞子 阿、宇田郷村(補) 本校寄  
倉増 太代 阿、高俣村(在補) 全  
岸森 京 阿、萩江向(在補)  
金子 喜代子 阿、萩川島  
河村 信子 阿、椿郷東分村中津江

田中 キヨコ 阿、椿村雜式町(在補)  
厚東 フミ 阿、椿郷東分村(在補)  
武林 チヨコ 阿、萩平安古  
松本 静子 阿、萩東田町(在補)  
田中 静子 阿、椿村金谷(在補)  
中原 則子 阿、福川村  
松本 喜久子 阿、椿郷東分村  
久保 アヤ子 阿、萩江向(在補)  
木村 静枝 島根縣益田(在補)  
小島 まつ子 阿、椿郷東分村(在補)  
土田 ユリ 島根縣益田(結)  
松浦 ウメ 阿、萩橋本  
松浦 千代子 玖、岩國 散居  
桂 竹子 阿、萩土原  
神野 サキ 阿、萩江向  
渡邊 ヨシ 阿、椿村濁淵  
多田 峯子 阿、椿郷東分村新道  
草刈 政子 阿、萩河添  
乃美 ハツエ 阿、萩江向 不詳  
黒瀬 美智子 阿、山田村奥玉江  
増野 ウメ子 阿、萩米屋町  
増山 静子 阿、萩橋本

都築 ユキコ 阿、生雲村(在補) 阿、萩橋本  
宮原 百重美、赤郷村 長門町古江ノ路  
茂住 タミ 阿、萩平安古  
中村 キク 阿、三見村  
倉富 イチ 都濃郡鹿野村(在補) 阿、萩江向  
富士見 フサコ 玖、岩國  
伊藤 芳子 阿、大井村  
河村 千代子 阿、三見村  
小河 キク 阿、小川村(結) 小川村  
伊藤 トミコ 阿、椿郷東分村  
伊藤 睦子 阿、大井村  
長井 トシ 阿、川上村(在補) 萩町川島  
師井 あい 阿、萩熊谷町  
厚東 ヨシ 阿、山田村奥玉江  
竹内 好子 阿、萩古萩  
池田 京子 阿、萩熊谷町(在補)  
藤本 芳江 阿、萩御許町(結) 萩  
武田 アヤ 阿、山田村奥玉江  
田上 ヨシコ 阿、山田村奥玉江(在補)  
並川 サヨ子 阿、萩河添 不詳  
中島 ヨシ子 阿、萩土原  
中谷 ツル 阿、萩熊谷町

中原 キク 阿、椿郷東分村沼田ヶ原  
宮川 ツル 阿、萩濱崎(在補)  
田中 キクコ 阿、椿郷東分村香川津  
齋藤 ミツ 阿、萩南古萩(在補) 大橋新道  
藤井 三枝 阿、萩江向(結) 不詳  
柴田 さく 阿、萩江向(在補)  
長屋 チヨノ 阿、山田村木間  
齋藤 キヨ 阿、生雲村  
渡邊 嘉子 阿、萩古萩(在補)  
杉村 サヨ 阿、山田村奥玉江  
吉田 貞子 阿、椿郷東分村(在補)  
齋藤 雪枝 阿、萩吉田町(在補)  
臺田 庚子 阿、椿郷東分村前小畑  
山根 幾子 阿、椿村(在補) 本校寄  
白井 チカ 阿、椿村金谷(在補)  
末岡 ハルコ 美、於福村(在補) 山田村  
吉屋 ハル 阿、萩油屋町  
溝部 ハナコ 阿、椿郷東分村上市  
小野 サキ 阿、椿村青海(在補)  
瀧口 澄江 阿、明木村(在補) 本校寄  
田阪 ミツ 阿、椿村河内  
藤田 ハツセ 阿、椿村青海 重富村 萩

新庄 貞子 阿、萩今古萩 (在補)

在校會員

第三學年梅組

氏名 本籍 近況
栗田 鹿子 阿、吉部村 (萩平安古)
岩竹 綾 阿、紫福村 (萩熊谷町)
山田 マサ子 阿、山田村川屋敷
竹重 ツチ 阿、吉部村 (本校寄宿舎)
堀永 ツタ 阿、三見村
富田 シゲコ 阿、萩土原
品川 マツヨ 阿、福賀村 (萩御許町)
安井 フユ 阿、川上村
堀 清子 阿、宇田郷村 (本校寄宿舎)
田中 静子 阿、椿村椿
金子 徳 阿、宇田郷村 (本校寄宿舎)
桂 静 阿、萩川島
今田 ナチコ 阿、萩下五間町
服部 サトヒ 阿、紫福村 (本校寄宿舎)
森屋 露子 阿、萩米屋町
中村 貞子 阿、椿郷東分村

岡 朝子 阿、萩濱崎
藤田 フサコ 阿、萩村青海
波多野 ナツ 阿、萩西田町
瀬戸 藤之熊、勝間村 (本校寄宿舎)
河野 ツチ 阿、奈古村 (本校寄宿舎)
早川 昭子 阿、萩平安古
堀上 ヨシ 阿、萩新堀
岡本 朝子 阿、萩米屋町
吉崎 綾子 熊、室津村 (本校寄宿舎)
西郷 ヨシコ 阿、椿郷東分村
松尾 治子 阿、萩江向
藤田 貞子 阿、福川村 (萩土原)
杉山 艶 阿、萩土原
河村 ヒサコ 阿、萩土原
齋藤 千代子 阿、大井村 (本校寄宿舎)
藤田 シゲ 阿、椿村
黒瀬 操 阿、椿村
村上 スエ 阿、萩土原
大島 梅尾 阿、萩濱崎
杉山 愛子 阿、萩八百屋町
音吉 ノブコ 阿、萩濱崎
石川 梅尾 阿、椿村沖原

長嶺 マチ子 阿、萩東濱崎
田坂 文 阿、萩江向
田村 トミ 阿、萩河添
藤川 キヨ子 全、萩西田町
伊藤 ハナ子 阿、萩江向
中山 壽子 阿、萩今古萩
岡 ヒデ子 阿、萩濱崎

第三學年菊組

氏名 本籍 近況
三好 シゲ 阿、萩濱崎
岩田 フミエ 阿、篠生村 (本校寄宿舎)
小野 静子 阿、奈古村 (本校寄宿舎)
原田 セツ 阿、山田村川屋敷 (死ニ)
藤田 良子 阿、椿村青海
羽鳥 志津 阿、椿郷東分村
平田 スミ 阿、椿村青海
高洲 美代 阿、椿村金谷
内藤 ツルコ 阿、萩江向
山中 松子 阿、萩平安古 (本校寄宿舎)
有吉 トミコ 阿、萩西田町
大谷 文子 阿、萩唐樋

關屋 千代 阿、萩瓦町
林 文 阿、萩河添
末成 清子 阿、萩平安古
後藤 通子 阿、椿郷東分村
小田 エイ 阿、奈古村 (本校寄宿舎)
村上 ウメ 阿、萩東田町 (本校寄宿舎)
大庭 ヨシコ 阿、萩瓦町
陶村 園子 阿、萩平安古
松本 ヨシコ 阿、萩東田町
保富 シゲノ 徳島市大字寺町 阿、萩古魚棚町
池田 トミ 阿、椿郷東分村
吉賀 菊江 阿、萩濱崎
吉村 糸妣 阿、椿郷東分村中ノ倉
秋本 ミツコ 阿、萩古萩
田總 イセコ 阿、萩平安古
杉 登志惠 阿、萩吉田町
岡 ツチヨ 阿、福川村 萩吳服町
山内 ヒサ 阿、萩土原
香川 マサ 阿、萩渡リ口
小島 芳子 阿、椿郷東分村鶴江 山田村
小河 シカ 阿、小川村 (本校寄宿舎)
阿座上 シカ 阿、紫福村 (本校寄宿舎)

渡邊 幸代 阿、萩平安古
白石 壽子 阿、萩東田町
屬 智世子 阿、萩江向
末武 愛子 阿、椿郷東分村 (本校寄宿舎)
阿座上 敏子 阿、萩江向
原 千代 阿、今古萩
第貳學年梅組
氏名 本籍 近況
山縣 ヤス 阿、萩平安古
遠崎 シズ子 阿、萩濱崎
阿武 フミオ 阿、萩川島
伊藤 ナヨ 阿、川上村
後藤 テフ 阿、萩濱崎
増 芳子 阿、萩江向
木村 サダ 阿、萩惠美須町
小野村 タカコ 阿、椿郷東分村後小畑
松井 須磨子 美、赤郷村 (本校寄宿舎)
笠井 暎子 阿、椿村雜式町
中村 ヤエコ 阿、萩江向
植村 フユエ 阿、椿郷東分村
安田 清子 阿、萩河添

久保 操 阿、萩土原
三戸 タミコ 阿、萩江向
鈴川 綾子 吉、東岐波村 萩御許町
山田 ヨク子 阿、山田村川屋敷
原 マサヨ 阿、紫福村 (本校寄宿舎)
阿武 竹子 阿、椿郷東分村香川津
原 スミ 阿、紫福村 萩新川
森 松枝 阿、川上村 萩平安古
横山 ヨシコ 阿、川上村 萩江向
木原 ヨシ 阿、椿郷東分村小畑
田中 マサ美、共和村 (本校寄宿舎)
林 貞子 阿、萩平安古
澄川 千里 阿、小川村 (本校寄宿舎)
今地 ヒデ 阿、川上村 (本校寄宿舎)
阿川 榮子 阿、地福村 (本校寄宿舎)
兒玉 セキ 阿、椿郷東分村越ヶ濱
吉津 ツキ 阿、椿郷東分村
前田 磯子 阿、山田村
竹内 淑子 阿、萩平安古
藤田 トヨ 阿、椿村青海
津田 サダ子 阿、萩江向

河村サツオ 阿、椿郷東分村越ヶ濱  
 藤田 綾子 阿、福川村(本校寄宿舎)  
 落合 愛子 阿、萩濱崎  
 佐田 初枝 美、大嶺村 萩唐樋  
 中村 ハナ 阿、萩土原  
 末益 マス 阿、奈古村 萩橋本  
 波多野芳子 阿、三見村  
 田中トシコ 阿、椿村雜式町  
 半井 嘉子 阿、萩東田町  
 伊佐とみこ 阿、萩橋本  
 羽仁とみ子 阿、萩平安古  
 伊藤 桃與 阿、椿郷東分村  
 齋藤 ハナ子 阿、萩濱崎  
 平田 春枝 阿、小川村(本校寄宿舎)

第貳學年菊組

氏名 本籍 近况

藏重 ヨミ 美、大田村 萩江向  
 伊達 ヨキヨ 阿、椿村沖原  
 金子 貞 阿、宇田郷村(本校寄宿舎)  
 内藤 ミツ 阿、萩江向  
 山中 繁 阿、萩濱崎

井町ヒサコ 阿、萩濱崎  
 池田スミ子 阿、奈古村(本校寄宿舎)  
 三島ヒナコ 阿、三見村  
 瀧口 和子 阿、明木村(本校寄宿舎)  
 金子喜勢子 阿、萩江向  
 松浦キミ子 阿、萩濱崎  
 竹内 マツ 阿、萩惠美須町  
 中村 花子 阿、萩平安古  
 山川ヤエコ 阿、椿郷東分村小畑  
 井上 壽子 阿、福川村(本校寄宿舎)  
 加藤 靜江 阿、萩土原  
 神代 雪子 阿、山田村 萩土原  
 兼重 安子 阿、萩川島  
 落谷 敏子 阿、萩吳服町 萩堀内  
 阿座上イト 阿、紫福村 萩北古萩  
 市原 安子 阿、嘉年村(本校寄宿舎)  
 大賀 ヒデア 阿、萩盤屋町  
 三好 ウラ 熊、淺江村 萩江向  
 久保アサ子 阿、萩濱崎  
 宮原 千代 阿、萩土原  
 植村 基礎 阿、椿郷東分村香川津  
 堀 文子 阿、萩河添

和田 貞 阿、萩吉田町  
 厚東 美惠 阿、椿郷東分村小畑  
 宮本 信子 阿、萩平安古  
 岡村 由枝 阿、福川村(本校寄宿舎)  
 松永 かつ 大、向津具村 小畑  
 三隅田クマ 阿、萩平安古  
 來島 シヅ 阿、山田村與玉江  
 山下 キヨ 阿、山田村  
 森田ミチ子 阿、福川村(本校寄宿舎)  
 鳥田トメ子 阿、川上村 萩平安古  
 河村 清子 阿、椿郷東分村  
 堀 梅 阿、椿郷東分村  
 大野美知子 阿、萩川島  
 倉田喜久代 大阪北區河内町(本校寄宿舎)  
 山本 靜子 阿、萩吳服町  
 田阪 文子 阿、萩江向  
 溝部ウメコ 阿、椿郷東分村  
 大田 春代 阿、吉部村(本校寄宿舎)  
 前田 英子 阿、地福村(本校寄宿舎)  
 立野彌壽子 阿、田万崎村(本校寄宿舎)  
 大谷 靜子 阿、萩濱崎  
 荒瀬 鈴子 阿、萩西田町

第壹學年梅組

氏名 本籍 近况

根來美代子 美、秋吉村(本校寄宿舎)  
 松本 恒子 阿、萩西田町  
 小田 チヨ 阿、山田村  
 野原 サト 阿、山田村  
 高橋 キク 阿、萩唐樋  
 花田 玉子 阿、萩江向  
 小野 君子 阿、田万崎村(本校寄宿舎)  
 平田ウメコ 阿、紫福村(本校寄宿舎)  
 兒玉 章子 阿、明木村(本校寄宿舎)  
 山田 ミツ 阿、奈古村(本校寄宿舎)  
 宮本マスエ 阿、萩南片河  
 北野ツチ子 阿、萩平安古  
 野村 幸 阿、萩米屋町  
 水津 サト 阿、萩江向  
 後藤かつよ 阿、椿郷東分村  
 片山三知子 阿、椿郷東分村  
 岸 縁 阿、椿村  
 矢島サカヘ 阿、高俣村(本校寄宿舎)  
 横山ミチコ 阿、萩河添  
 國重 淑子 阿、椿郷東分村

三戸 キヨ 阿、山田村  
 木村キヨ子 阿、萩北古萩  
 山田 千代 阿、萩土原  
 松林 和子 阿、椿郷東分村  
 堀 ナミ 阿、萩川島  
 信常 壽子 阿、萩平安古  
 鈴木 ヒデア 阿、萩五間町(本校寄宿舎)  
 桂 ツネ 阿、萩川島  
 光國 爲子 阿、萩米屋町  
 兒玉フサコ 阿、萩江向  
 田阪アヤ子 熊、八代村 萩平安古  
 金子よし子 阿、萩江向  
 中村ツル子 阿、福川村(本校寄宿舎)  
 永田 シヅ 阿、椿郷東分村  
 秋山 佳重 阿、萩北古萩  
 渡邊 初子 阿、萩濱崎  
 小河 ッチ 阿、小川村(本校寄宿舎)  
 加藤シヅコ 阿、萩西田町  
 竹内 恒子 阿、萩濱崎  
 森永 俊子 美、眞長田村 椿郷東分村  
 中原 澄 阿、萩江向  
 飯田 タイ 阿、萩江向

仁尾 玉 阿、萩江向  
 林 春枝 阿、萩川島  
 松浦マツコ 阿、萩橋本  
 豊田喜代子 阿、萩河添  
 高洲ナナ子 阿、萩土原  
 鹽見 愛江 阿、椿村  
 清水 照子 阿、椿村  
 福原 仁子 阿、椿郷東分村

第壹學年菊組

氏名 本籍 近况

重岡 キヨ 阿、萩油屋町  
 松浦 クラ 阿、奈古村(本校寄宿舎)  
 河野ユキコ 阿、萩濱崎  
 岡村 ハナ 阿、椿郷東分村  
 進藤 秀 阿、椿郷東分村  
 古川 末子 阿、田万崎村(本校寄宿舎)  
 幸阪サチコ 阿、萩西田町  
 五峯ヨシコ 阿、萩濱崎  
 西山ヨシコ 阿、萩御許町  
 谷川トヲコ 阿、山田村  
 鈴木ヒサ子 阿、山田村

- 中川 ルヨ 阿、山田村
  - 行本 ヨシ 阿、萩橋本
  - 林 静子 阿、萩平安古
  - 佐竹 昌子 美、岩永村(本校寄宿舎)
  - 山田 ヨシ 阿、萩江向
  - 阿武 菊枝 阿、川上村 萩平安古
  - 西山 キヨ 阿、山田村
  - 原 敏子 阿、地福村(本校寄宿舎)
  - 寺山 豊子 阿、地福村(本校寄宿舎)
  - 前原 信子 阿、萩土原
  - 田村 マサコ 阿、山田村
  - 阿武 壽子 阿、椿郷東分村
  - 金國 テルコ 阿、萩江向
  - 大谷 キク 阿、椿村
  - 有田 フミエ 阿、彌富村(本校寄宿舎)
  - 白井 サメ 阿、椿村
  - 小島 美智恵 阿、萩春若町
  - 須子 美登里 阿、小川村(本校寄宿舎)
  - 小澤 ハツ 阿、萩平安古
  - 山中 照子 阿、萩濱崎
  - 溝部 元妃 阿、椿郷東分村
  - 山本 イトコ 阿、椿郷東分村
- 
- 口羽 朝子 阿、篠生村(本校寄宿舎)
  - 井町 ウメ 阿、萩津守町
  - 小島 繁子 阿、山田村
  - 宇多田 静子 阿、椿郷東分村
  - 堀江 トミ子 阿、萩江向
  - 小野 静子 阿、椿村
  - 田中 キサ 阿、椿郷東分村
  - 八木 房子 阿、萩西田町
  - 大津 照子 阿、萩濱崎
  - 能美 八重子 阿、萩土原
  - 三浦 アヤ 阿、萩濱崎
  - 堀本 トメ 阿、萩堀内
  - 坪倉 シゲ子 阿、萩平安古
  - 上利 サキ 阿、椿郷東分村
  - 遠藤 千代子 阿、萩吉田町
  - 村田 勝子 阿、萩江向
  - 佐久間 ニキ 阿、嘉年村(本校寄宿舎)



大正六年六月三日印刷  
 大正六年六月八日發行

(非賣品)

發行所 山口縣阿武郡立實科高等女學校  
 編輯者 右代表者  
 發行者 中野貞介  
 印刷所 株式會社萩響海館  
 印刷者 山本...

